

研究分野のキーワード：技術教育，金属加工，技術史，機械工作，体験学習，野外活動

研究紹介

現在社会は物質的に豊かで、必然的に人々は、何事に付けても品物を買えばすみますので、選択するだけで、基本から物事を考える必要性が少ない感じがします。生活を取り巻く完成された商品群は十二分の性能を持っており、ただ商品を購入して使うだけで満足出来るからです。しかし、主体的にもものに関わる必要がない事は、自分が文明の依存物かのような気にもさせます。豊かな生活と表裏一体になっている、そのように受け身な行動様式は、生きている実感に乏しいものとなりかねません。そこで、いま一度、体験学習的に歴史を疑似体験し、現実が実感を持って捉えられるようにならないかと思い、研究を始めました。

さて、現在の文明を作り出した大きな要因の一つに金属加工法の進歩があります。時代区分的に考えますと、ご存じのように、旧石器、新石器、青銅器、鉄器時代という分類になっています。直接現代文明に繋がっているのは、農耕が行われ始めた新石器時代からです。そして、現在でも青銅器、鉄器時代と言っても過言ではありません。例えば、目には見え難いのですが、銅がなければ電気は送れませんし、発電も出来ず、鉄がなければ発電できない等々、極めて基本的社会インフラの根底を担っているものです。金属加工、特に機械加工は、今では体験する事も少なくなっています。知識の実感化のため、文明(civilization)を作り上げた金属の(歴史的)役割、基本的加工法を知る事は大切だと思えます。

そのために、より基本的、体感的な手工体験から始める事が有効と思えます。本末転倒的な教科の枠に拘泥されたアリバイ作りの教材研究ではなく、教科の枠を外して、現代人に必須の教養としてどのような内容がいいのか考えています。その場合、技術科がコア教科となった生活単元学習がふさわしいかもしれません。文明とは技術水準の高い社会の状態とも言い換える事が出来るのですから、きちんとまとまった一つの教科では存在出来ないと思うのです。そのために、現代文明を作り上げ、支えている基礎的インフラというべき金属について、歴史的役割、基本的加工法を知り、材料の特性を実感させるような教育、教材が出来ないかと四苦八苦しています。また、同じ体験的な学習として、野外活動で使用する道具等についての材料学的考察や自然体験学習について検討しています。